

「再構築ガイドライン(案)」及び「第 1 期設置方針(案)」への各委員からの主なご意見

再構築ガイドライン
(案)について

- ・学校規模を基準とした再編統合とは異なり、「こどもまんなか」の観点から子どもたちにどのような教育を提供するのかについて、令和 3 年度からの県立高校再編に関する検討会議体での丁寧な議論を踏まえた適切な案になった。
- ・第 1 期校のグローバルハイスクール・未来探求ハイスクールおよび第 2 期以降の中高一貫教育校・大規模校の設置場所について、それぞれの教育内容に必要な施設・設備や生徒の通学利便性を考えて検討されたものとなった。
- ・「どの学校を残すか」ではなく、「どんな学びを提供するか」を中心に据え、一貫性のある高校教育改革となるよう令和 20 年度を見据えバックキャストの考え方で進めてきた。これまで理念だったものが、ガイドライン・設置方針へと段階的に整理されたことは大きな前進であり、いよいよ改革が具体的な実行段階に入ったと感じている。
- ・今回、第 1 期のみならず、第 2 期、第 3 期まで見据えたロードマップが示されたことは、生徒や保護者、教育関係者をはじめとする県民の安心感につながるものと考ええる。
- ・令和 20 年度の「目指す姿」は、今後の社会情勢の変化等を踏まえながら、羅針盤である実施方針で描いた 20 校程度の案をもとに検討を進めていくべきものと考ええる。
- ・中高一貫教育校については、STEAM 教育の拠点として整備する方向性となっており、県全体の理数・情報教育を牽引する存在になることを期待する。
- ・大規模校については、多様な科目選択や専門分野を学べる環境を目指しており、これからの高校教育の方向性に合致している。富山県の高校教育改革を象徴する新しい学校になるものと期待しており、未来の学びにふさわしい教育環境を整えるためにも、新築による整備を基本として検討してもらいたい。

第1期設置方針 (案)について	・第1期校は、全県的な配置バランスを考えながら、地域に根差した教育の場を円滑に維持・継続していこうとする方針となっており、子どもたちが安心して通える環境に配慮された案となった。 ・少子化という現実に向き合いながら、教育の質を守り、高めていこうとしている。特に未来探求ハイスクールにおける①「夢中になれる時間」が生まれること、②新しい技術（生成AI、メタバースなど）に触れられること、③一人ひとりに合わせたサポート（スクールカウンセラー、ソーシャルワーカーの充実）などのソフト面の取り組みは、子どもたちの成長にとって良い影響があるものと期待している。 ・新時代HSとして活用する高校では、1年生と2・3年生で異なる教育課程の生徒が同じ校舎で学習活動を行うことになるので、学校運営が難しくなることも想定される。今後、学校関係者の意見も聞きながら丁寧に進めてもらいたい。 ・閉校となる学校についても在校生が充実した学校生活を送ることができるよう学校の意見を聞きながら必要な支援を行ってもらいたい。 ・閉校となる高校の在校生・保護者・同窓生・地域住民のみなさんへの十分な配慮をお願いしたい。
その他 （構想の推進や 今後の進め方など）	・変革期における不安を抱かせないよう、県民、特に生徒、保護者、教員への丁寧な説明が必要となる。 ・子どもたちが十分に考えて進路選択できるよう、できるだけ早く具体的カリキュラムやアドミッション・ポリシーを示し、進路相談の体制も整えてもらいたい。 ・今後の県立高校教育の方向性を示す羅針盤であることから、多くの教員が理解した上で、その推進に関与していくことが必要である。